

重点取組分野	令和 7 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きて働く知	①GIGA端末も併用した朝学習・朝読書、MY検定、放課後学習支援等で個別最適な学びを実現させる。②Studyナビで、児童が自分自身の学習状況や成長をメタ認知できるようにし自己肯定感を高める。③児童の思いや願いをもとに、人のつながりを大切にしたい単元づくりを行い知的好奇心を高める。	①デジタルの力でリアルな学びを支えるという理念でバランスの取れた学びを目指した。②学びを振り返る時間を大切に自己調整したり、自己肯定感をもてるようにしたりした。③人とのつながりを大切にしたい授業づくりを意識することで社会情動的コンピテンシーの数値が伸びてきている。	B
豊かな心	①ペア学年交流、幼保小交流、福祉の事前授業等人のつながりを大切にしたい教育活動を通して共感力や気遣い、思いやりの心を育む。②学年や学校の行事や児童会活動で児童の願いや思いを実現させることで、主体的で自立した学習者を育成する。③キャリアパスポートに自分自身の成長の足跡を残し意識化できるようにする。	①人のつながりを大切にしたい活動で共感力や思いやりの心を育んだ。②創立120周年関連行事では子ども思い、願いを大切に達成感や充実感を味わえるようにした。③キャリアパスポートで成長を振り返ることを意識的に行った。	A
健やかな体	①児童会主催の体力アップ集会を通年でを行い、体力向上や健康安全への意識を高める。②健康診断や新体力テストのデータ等から課題を抽出し学校保健委員会と連動して改善を図る③重点研究で取り組む体育科の授業では新体力テストの結果を分析し運動能力や技能の向上に資する授業改善を行う。	①新体力テストのデータ等から課題を抽出し体力アップ集会で体力向上に努めた。②創立120周年事業と関連付けて年間を通して学校保健委員会で環境美化活動に取り組んだ。③重点研究で取り組む体育科の授業では新体力テストの結果を分析し運動能力や技能の向上に資する授業改善を行った。	B
多文化共生	①日本人と外国人児童が共に学ぶ学校として多文化共生教育を推進し積極的に発信する。②国際読書会、運動会、多文化共生授業、つながる遊び集会、母語教室等を通して国や文化の違いを認め共に生きていく力を育む。③児童会活動の年間計画に多文化共生を位置づけ児童がそのよさを自覚し発信できるようにする。	①②国際読書会、運動会、多文化共生授業、つながる遊び集会、母語教室等多文化共生教育を推進し積極的に発信した。国籍や文化、言語の違いを超えて笑顔でつながり結びあう意識が醸成された。③児童会活動の年間計画に多文化共生を位置づけ児童がそのよさを自覚できるようにした。	A
いじめへの対応	①健康観察やアンケート、教育相談等で事実を把握し、いじめ防止対策委員会を中心に安心して学校生活を送ることができるようにする。②道徳を中心に全ての教育活動でいじめ防止や生命尊重について指導する。③「笑顔で結びつなげよう南吉田」を意識した児童会活動で児童自らいじめ防止キャンペーンを推進する。	①日々の健康観察、アンケート、教育相談等で把握したいじめに関する情報をいじめ防止対策委員会と共有し迅速に対応した。②③「笑顔で結びつなげよう南吉田」の合言葉を浸透させ児童自らが差別やいじめを許さないという意識を持って活動できるように努めた。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①OJTでスキルアップを図るとともにメンターチーム研修を通して経験の浅い教職員同士が悩みを共有できる場づくりを行う。②校内研修を活性化し主体的に学校づくりに参画する意識を高める③教育振興基本計画や経営計画に照らして教育DXを推進することで校務の効率化を図り、働きやすい職場づくりを進める。	①創立120周年記念事業や運動会などの行事運営を通して経験の浅い教職員の人材育成を図った。またメンター研修を通してスキルの向上や同僚性の構築に努めた。③教育DXの推進や働き方については改善の余地がある。	B
児童指導	①「南吉田小学校スタンダード」を児童の視点で見直し、児童と職員が共通理解のもとでルールとして定着させる。②児童指導全体会で情報共有し組織的な対応ができるようにする。③関係機関連携(区、児相、警察等)を充実させ、学校だけでは解決できない課題の改善を図る。SC.SSW連携の強化。	①「南吉田小学校スタンダード」の見直しは実現できなかった。ルールの定着は家庭の協力が不可欠なので引き続き粘り強く働きかけていく。②③児童指導案件は全体で共有し校内外のリソースを活用して対応しているが、学校だけでは解決できないことも多いので引き続き関係機関と連携して対応していく。	B
特別支援教育	①児童のニーズに応える特別支援教室でのきめ細かい支援で学力を定着させ、自己肯定感を高める。②一般級と個別支援学級の交流を充実させインクルーシブな環境づくりを促進する。③国際教室と在籍学級との連携で日本語能力を伸ばさせる。④横浜国大や地域協働本部と連携して放課後学習支援教室を継続実施する。	①④特別支援教室や放課後学習支援教室できめ細かい支援を行った結果、学習に自信を持てる児童が増加した。②120周年事業では個別支援級在籍児童が一般級児童とともに活躍する姿が随所に見られた。③国際教室通級児童の日本語力向上に努めた。	A
地域学校協働活動	①学校HPで教育活動を公開し地域に開かれた学校づくりを進める。②まち探検を通してまちを知り、愛着をもてるようにする。③「地域清掃」「地域防災訓練」等の活動に参加し、まちの一員として自覚がもてるようにする。④学校運営協議会と連携して創立120周年行事を開催する。	①地域に開かれた学校づくりを進めるため学校HPやnoteで積極的に発信した。②まち探検を通してまちと関わり愛着をもてるような活動をした。横浜橋通り商店街との連携が深化した③祭礼、地域清掃、もちつき等に参加し、まちの一員として自覚がもてるようにした。④学校運営協議会と連携して創立120周年行事を開催した。	A
a15	a25		
ブロック内評価後の気付き	小中合同授業研究会では授業参観後に各教科等に分かれ協議や情報交換を行い、教科等で育てたい資質・能力について共有することができた。一方で普段から小中一貫教育の視点を意識して教育活動を行うことには課題があった。今後は学力・学習状況調査や体力テストの結果を小中で共有し強みや弱みを分析するなどデータ活用を進めたい。		
学校関係者評価	授業はいつもながら工夫されていた。図書館は児童が興味をもつようによく工夫されている。子どもたちが明るく伸び伸びと生活している姿を見せてもらった。先生たちの努力があるのだろうと思う。地域とのつながりが深まっている。横浜橋通り商店街との連携はとてよい。「ふれあい清掃活動」に参加を呼び掛ける子どものポスターが素晴らしい。地区社会福祉協議会の冊子にもそのことを掲載する。地域と顔の見える関係になっていてよい。		
中期取組目標振り返り	創立120周年記念事業では児童の思いや願いを、学校、保護者、地域が協働して実現させることで、児童の自己肯定感が上がり、地域との連携も深まった。横浜橋通り商店街応援隊の取組はテレビや新聞等で報道され地域の方からも高い評価をいただいた。横浜エクセレンスのスマイルアンバサダー活動も2年目となりコロナグッズ制作など、子どもの主体性が発揮された。みなみラウンジ、地域ケアプラザ、消防署と連携して地域や人とのつながりを大切にしたい教育活動を展開することができた。		